



## 技術士会の現状と活動及び課題等について

地区代表幹事 大橋 義美

今回の機関誌は、技術士会を取り巻く現状や活動状況及び私が日頃考えていること等について記述します。

### 1：長崎県技術士会の動き

6月の総会后、HPの開設へ向けての準備などを行っています。

まず、総会で長崎県技術士会の略称を決めてはどの提案があり、募集した結果、4件の提案があり役員会で協議の結果、次の案を採用することにしました。ご提案ありがとうございました。

略称：APREN-Nagasaki (Association of Professional Engineering Nagasaki) アイブレン・長崎(愛されるプロフェッショナルエンジニアとの意味を込めて)

今後は、当略称を使用して行きますが、ネーミングのとおりに、地域に愛される技術者集団となることを祈念します。

次に、HPについては現在IT委員会において検討が進められています。開設までには若干の時間が掛かりますが開設後は会の活動の活性化に役立つものと期待します。

尚、九州支部の動きを見ますと、光岡支部長の就任挨拶のなかでNPOの立ち上げについて述べられています。九州技術士センターと(有)九州技術支援センターを解体し新たにNPOを立ち上げることを検討中とのこと。

現在、地区単位では、佐賀県、熊本県、宮崎県等の技術士においては、技術士が国民に対し、社会に対し貢献をしなければならないとの観点からNPOを立ち上げ活動されています。このような動きの中で長崎地区においても今後NPOの立ち上げの是非などが課題となるものと考えます。

### 2：総務・広報委員会の取り組みについて

本委員会は、会員名簿の作成、県技術士会年会費の徴収、会の会計、支部等からの連絡事項の処理、総会の準備・開催、機関誌の発行が主たる業務です。会員の皆様にとって、「長崎県技術士会」が魅力のある、そして、入会したメリットのある会でなければと常日頃考えています。

しかし、委員長を仰せつかっています私が、企業に勤務している関係上、会の業務に時間を割くことが難しい点が多くあります。また、九州支部の長崎地区代表幹事を兼ねていますので、こちらの業務も結構な時間をとられます。

このため、会員の皆様への連絡等、満足していただくような活動が出来ていないのが実状で、日頃申し訳なく思っています。

#### ① 会員名簿の作成

皆様の情報を得て、名簿のメンテナンスを行っています。が、本年度はまだ名簿の発行を行っていません。但し、「長崎県年鑑」(有中央人事通信社総局発行)には肖像入りで掲

今後、個人情報保護の関係等でどのようにするか検討が必要と考えます。

又、IT委員会と連携を取りHPでの会員名簿の掲示等について検討をして行くことも必要と考えます。

尚、(社)日本技術士会九州支部及び九州センターは17年度名簿の発行を取り止めています。このため、長崎地区会員の名簿は各地区の事務局で纏めることになりました。

#### ② 会費の徴収

本年度より会費を変更しましたが、9月10日現在で会員100名の内69名の入金があります。納入が未済みの方は、納入方宜しくお願い申し上げます。

#### ③ 機関誌の発行

犬東会長の発案で、平成15年4月に創刊号を発行し、以後3ヶ月毎に発行し、本号で11号となります。

その間、多くの会員の皆様に執筆のご協力をいただきありがとうございました。機関誌の発行などは継続が重要と考えています。

今後は、テーマを決めた「特集号」等の発行も如何と考えています。何れにしても多くの皆様の投稿をお願いします。

又、機関誌の内容については、IT委員会と相談し、HP等への掲載も考えて行きたいと思えます。

#### ④ (社)日本技術士会等への入会お誘い

各技術士が入会している会としては、(社)日本技術士会(九州支部)、九州技術士センター、長崎県技術士会があります。

これらの会は、それぞれ独立しているため、(社)日本技術士会(九州支部)や九州技術士センターに入会されている技術士で長崎県技術士会会員でない方が24名見受けられます。又、登録技術士や修習技術者(技術士補)で入会されていない方が多くあります。今後は、これらの方々への入会のお誘いが必要と考えます。

長崎県技術士会を発展させるためには、多くの会員が出来れば日本技術士会(年会費21,000円)へ入会され、研修会への参加、地域に開かれた貢献する技術士会として継続した活動が必要と考えています。

以上、色々記述しましたが、各活動が会員皆様の負担にならないように、しかし、全会員にとって有意義なものであるようにすることは、矛盾もあろうかと考えますが、技術士会としての活動は、技術に対する情報交換、自己啓発等に重要な役割を果たすものと考えますので、積極的な参加をお願いいたします。

載しています。

## 2：各種活動の状況等について

### 1) CPD 関係

研修会への出席の状況を見ますと、100名の会員の内、20～30名程度の参加です。

当会会員の所属を見ますと、独立技術士が15名、建設コンサルタント勤務者が46名、建設業勤務者が15名、官公庁（県・市町村）勤務者が18名、製造業勤務者が6名となっています。

このように、勤務者が多いため業務の都合で週日に開催する研修会等への参加者が少ないものと思われる、この点が課題と考えられます。

ところで、九州支部の役員会等で、各地区の活動状況が報告されますが、毎月決まった日時（例えば、第3土曜日など）に、月例会議・研修会を開催されており年間スケジュールが決められている地区があります。

佐賀県では、NPO法人技術フォーラムと連携して月例の研修会や市民活動がなされています。

長崎地区も、このように活動が活発となり、会員間のコミュニケーションが図られ、色々な情報交換が出来れば会の活性化に繋がるものと考えます。

但し、長崎県は、長崎市、佐世保市、諫早市地区に多くの会員の住所があり、距離も離れているため、現状の様な年2回程程度の総会・研修会以外に、もし月1回程程度の会合を行うとすれば、このような地区に分けて実施して行くことも一案かとも考えます。参加し易い研修会の形が重要かとも思います。

尚、研修実績に対する技術士会への継続研修の登録が、電子登録になりましたが登録されている方が少ないのではないかとも考えられます。研修された結果は登録されることをお勧めします。

### 2) 会員の状況

長崎県内の技術士で、(財)日本技術士会(九州支部)や九州技術士センターに入会されている技術士は現在85名です。この内長崎県技術士会に入会されている会員は61名で、未入会の方が24名となっています。又、登録済みの技術士や修習技術者(技術士補)で入会されていない方が多くあります。今後は、これらの方々への入会のお誘いが必要と考えます。

### 3) ホームページの開設

九州支部内の地区でHPを開設し、九州支部のHPにリンクしている地区として、佐賀、熊本、鹿児島があります。

HPの開設により、会員への情報提供、意見の交換、会員間の技術情報提供などが可能と考えます。

### 4) 災害技術支援

長崎県技術士会で各部門の委員を決め登録していましたが、日本技術士会としてはこの登録を本部のHPにより電子登録のシステムに変更になりました。

多くの方の登録をお願いします。

平成16年10月に発生した「平成16年新潟中越地震」については、日本技術士会の災害技術支援委員会が現地調査を行い「平成16年新潟県中越地震 技術士会現地調査結果及び緊急提言 平成16年11月(社)日本技術士会防災特別委員会」を発行するとともに、研修会における報告会や官庁に対する報告書の贈呈を行いました。

当会においても冊子を、17年1月11日福岡委員長、大橋代表幹事で、長崎県土木部及危機管理・消防防災課へ届けました。

又、平成15年、16年度には長崎県内の市町村へ災害技術委員会のパンフレットを届けています。

但し、市町村の合併により組織が大きく変わっているため、今後どのように対処するか検討が必要と考えます。

長崎県内で、自然災害が発生した場合は、行政で対応されることが殆どであり、技術士会へ支援要請があるかどうか、又、あった場合に会として迅速に対応出来るかも検討が必要かとも思います。

災害技術については、災害予防や減災技術に対する研修会等も有効かとも思います。

尚、自然災害については、災害予防として活動されている各種の「防災ボランティア」との連携などがあるかどうか等も検討課題かとも思います。

### 4) 修習技術者支援

1次試験合格者が多く出ており、又、長崎県内においては長崎大学水産学部及び佐世保高専がJABEEの認定を受けているため4年後には卒業生が修習技術者となります。

先般、支部より修習技術者支援に対するアンケートがあり、長崎県では、修習技術者の氏名・勤務先等は把握していない。支援活動は特別行っていない。支援要領等については支部で教育してほしい等を回答しています。

他の地区においては、1・2次試験合格者の「合格祝の会」等を開催されています。このような会を開催し会員を誘うことも可能かとも考えます。

今後、修習技術者及び1次試験受験者に対する支援をどのようにしていくか。技術士の試験制度や技術士の活躍等についても広く一般技術者に判るように広めて行くことも必要かとも考えます。

又、45歳以下の「青年技術士」の活動に対する取り組み、援助も考える必要があるのではとも考えています。

### 5) 会と各委員会等の活性化へ向けて

以上、各活動について述べましたが、各種の活動を活発させるためには、一部の会員のみでの活動では十分に機能しないと考えています。そして、本年度に設けた各委員会が縦割りではなく横の連携を密にすることが重要だと思います。

このため、役員、各委員長、会員で今後の活動について進む方向を話し合っていくことも考えています。

## 事務局たより

### 1：技術士全国大会

既案内のとおり、平成17年10月19日 福岡市にて開催され九州支部が担当します。長崎県技術士会研修の一旦として多くの会員皆様のご参加をお願いいたします。

### 2：NPO 法人技術交流フォーラム（佐賀）開催の技術研修会などへの参加について

長崎県技術士会は賛助会員となっておりますので研修会などへの参加が出来ます。

下記のHPで開催の案内がされていますので、確認のうえ参加される方は、長崎県技術士会員である旨申し出参加下さい。

〔NPO 法人技術交流フォーラム〕で検索下さい。

17年11月26日（土）の研修会の講師依頼が参りましたので松本直弥技術士（応用理学）を推薦しておりますので多くの会員の出席をお願いいたします。

### 3：連絡手段について

現在は、メールと郵送により連絡を行っていますが、出来ればメールで日常の連絡が可能になることを願っています。つきましては、現在郵送で連絡している会員でメールで可能な方はご連絡をお願いいたします。

又、メールでの連絡に不具合な点がある方もご連絡下さい。

### 4：職場変更等のご連絡のお願い

人事異動などで職場が変更となられた会員はご連絡をお願いいたします。

### 5：その他

会の活動等に関する提案や自由なご意見等、本機関紙への投稿をお待ちしております。

会員皆様の要望、意見、各種情報等も下記までお寄せください。

長崎県技術士会に関する連絡は、下記へお願いいたします。

西日本菱重興産株式会社土木部 大橋 義美

〒852-8136

長崎市神の島町3丁目9番9号

TEL 095-865-520

FAX 095-865-5880

E-mail : [yoshimi.oohashi@west-ryoko.co.jp](mailto:yoshimi.oohashi@west-ryoko.co.jp)

\*本頁は、技術士全国大会における「資料集」に掲載する各地区の活動報告の内、「長崎県技術士会の活動」について報告したものです。  
会の活動等について記載しています。



長崎県技術士会（会員数：100名）の活動

【 長崎県技術士会会長：犬束洋志、 地区代表幹事：大橋 義美 】  
[hiroshi\\_inuzuka@mhi.co.jp](mailto:hiroshi_inuzuka@mhi.co.jp)      [yoshimi.oohashi@west-ryoko.co.jp](mailto:yoshimi.oohashi@west-ryoko.co.jp)



長崎港（建設中の女神大橋と豪華客船）

#### 本会の活動基本方針

生涯研修を活性化し地域に開かれた貢献できる技術者集団を目指し、以下の事業をおこないます。

- 1) 業務の普及および啓発
- 2) 試験事務および登録事務に関する協力
- 3) 行政施策に関する協力
- 4) 技術に関する調査研究
- 5) 技術力向上のための研修・講習
- 6) 関係団体との連絡協調
- 7) その他本会の目的を達成するための事業

#### パートナーシップ

本会事務局を（財）長崎県建設技術研究センターにおき、共働による研修会の開催等を推進します。



財団法人 長崎県建設技術研究センター  
電話 0957 (54) 9633

- （財）長崎県建設技術研究センター主催の「ながさき建設技術フェア2005」の後援

#### 最近の活動・トピックス

- 定例研修会（新年・総会時）の開催
  - 他機関・他県法人技術フォーラムとの研修会共催
  - 県、市民参加研究発表会

#### 本会の課題

県技術士会の課題を、会員全員で協力し魅力のある会になるように努めます。

- （社）日本技術士会会員の拡大
- ホームページの開設と活用
- 新しく設けた、総務・広報、業務・CPD、IT、修習技術者、災害技術支援の各委員会活動の活発化
- 県技術士会発行（年4回）の機関誌「IPEJ—NAGASAKI」の内容充実
- 産・官・学との連携